

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/
E-mail:gyoren@kagawa-
gyoren.or.jp



JF 高松市北浜町 8 - 25
TEL 087-825-0350
J F 香川漁連 FAX 087-851-0699

謹賀新年

香川県漁業協同組合連合会

代表理事会長 服部 郁弘



年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会業務運営につきまして、格別のご協力を賜りありがとうございました。

さて、昨年の本県の漁業は、資源の減少、輸入水産物の増大や魚価の低迷・販売不振、魚類養殖における産地表示・養殖履歴の問題やノリ養殖における色落ちの問題、就業者の減少や高齢化・後継者不足、更には近年頻発する高潮被害等の自然災害により厳しい状況が続いています。また、最近の燃油価格の異常な高騰により漁家の経営は更に苦しくなっております。

このような中で、昨年 11 月に JF 全国漁協代表者集会在東京で開催され、今後 3 年間の JF グループの事業・組織・経営改革に向けた新運動方針が示され、合併構想の完遂や事業改革の実践による事業利益“V字回復”の実現等が決議されました。

本県におきましても漁協の合併は着実に前進し、昨年 4 月に 1 件 2 漁協が合併し県下の沿海地区出資漁協数は 39 となりました。また、昨年 6 月の本会通常総会において、「1 県 1 漁協を最終目標とした合併等基本計画を完遂する」ことが特別決議され、1 県 1 漁協への取り組みは着実に進められております。

県漁連といたしましては、本県水産業が抱える諸問題を克服し、将来に向けて安定的に発展させていくために、自然と調和したゆとりある水産業づくりや環境にやさしい漁業を念頭に置き、養殖業の積極的展開と、栽培漁業と資源管理型漁業の有機的な連携、新たな流通システムの構築等により、つくり育

てて売る漁業や安全・安心な水産物を消費者に提供する産地消運動および子供たちに水産物のおいしさと栄養を学んでもらう食育を推進し、地域に根ざした活力ある香川型漁業を確立することが急務であると考えております。また、漁業生産の源である豊かな海の環境保全について、海は県民共有の財産との認識の下に県民あげての運動として取り組むとともに、海難事故の防止や漁業と海洋性レクリエーションとの共存をめざす海面利用の適正化に取り組む必要があります。漁業基盤の強化を推進し、担い手の確保や都市住民との交流などに取り組み、うるおいとにぎわいのある漁業地域づくりを進めていくことも今後の重要な課題です。

また、昨年 11 月には「県魚ハマチ指定 10 周年記念事業」として「県魚フェア」を高松市で開催、また、県外では千葉県でキャンペーンを行い、県魚ハマチを中心に県内水産物をアピールしました。

本年も、厳しい経営環境が予想されるなか、会員・所属員の経済的、社会的地位の一層の向上を目指して諸事業に取り組んで参る所存でありますので、会員各位をはじめ関係者諸賢におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様方の限りないご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。



香川県かん水養殖漁業協同組合

代表理事組合長 嶋野 勝路



新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

わが国の経済は、首都圏において景気の回復が見られるものの、地方においては回復の兆しささえ見えておりません。特に、

水産業においては依然として厳しい環境が続いており、漁家経営は益々窮地に立たされています。

とりわけ魚類養殖業は、平成 12 年のハマチ・カンパチ等の価格の暴落から今日迄、生産原価を割る低価格で推移して浜の状況は壊滅的な打撃を受けております。先行きの不安定要素は解消されておりませんが、今年こそ前浜に明るい笑顔が戻り、希望に満ちた年でありますよう切に願う次第であります。

顧みますと、昨年のかん水養殖は無秩序な輸入水産物の増大・産地間競争力の激化に加えて燃油高騰等、外的要因もさることながら、市場流通の安物指向と相俟って、生産者のコスト負担ばかりが際立っている次第です。

全海水では生産者、自らが取り組むべきは、需要に見合った生産調整をすることが喫緊の課題であるとし、昨年の削減に加え、再度の削減を行い、結果ハマチ 2,000 万尾、カンパチ 1,100 万尾、マダイ 5,000 万尾として各府県枠を調整したところでありますが、生産者の努力が実を結ばず厳しい結果となりました。香川県かん水においても生産調整をして、事態打開として消費対策、販売促進事業等、活発に展開して参りましたが、価格の低迷には改善が見られませんでした。

就中、一次産業である水産業は漁船漁業・養殖業ともに厳しい冬の時代を迎えておりますが、食糧産業の一翼を担う私達の努力が報われるよう国、県に対し強く要望して参りたいと考えています。

本年度も養殖業を取り巻く環境は厳しいものと予測されますが、組合員の漁家経営が向上して安定するよう、県漁連と一体となり販売面での活路を見だしたいと思っております。

最後に、かん水養殖業の発展と前浜に活気が戻るよう役職員一同、精一杯心を新たに取り組んで参る所存でありますので、更なるご理解・ご協力を組合員皆様をお願い申し上げます。

香川県海苔養殖研究会

会長 森 朝 征



初春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。平成 18 年の初頭に当たりノリ関係各位のご健康とご多幸をお祈りいたします。

さて、近年の国内ノリ生産は漁場環境の変化により不安定な様相を呈しており、本県において

も平成 12 年度漁期に記録的な水揚げを達成して以来、栄養塩の早期低下傾向が続いており、このため、色落ちによる品質低下と生産数量の減少により、ノリ漁家の水揚げ高は低水準にあり厳しい経営を余儀なくされております。

こうした状況の中、関係機関の指導と協力を仰ぎながら当研究会としては色落ち対策をはじめ、病障害対策や食害対策等に取り組んでいるところであります。現在のところ抜本的な対策を講ずるに至っておりませんが、今後においても更なる努力を積み重ねて参る所存です。

一方、流通面においては、昨年度からノリ輸入割り当て枠がグローバル化され、実質、中国ノリの輸入が開始されました。いよいよ、国内産地間競争の時代から外国産ノリとの競争の時代を迎えた訳です。今までは国内の生産動向でのみ左右されたノリ市場は中国、韓国の生産状況をも視野に入れたものに变化してくることが予測されます。我々生産者はいままで以上に流通業界の変化に注視するとともに、消費者の要求に応えるべく安全で安心なノリ作りを推進しなければなりません。

このように漁場環境の悪化、流通業界の変革、更には原油高騰に伴う燃料油の負担増大等、難題が山積されておりますが、会員が結集してこの難局を乗り切りたいと考えております。

本年度漁期は、夏季の記録的な渇水の影響により栄養塩の動向が懸念される中生産が開始されましたが、当初は寒波による強風で生産数量は伸び悩みました。これから生産最盛期に入りますが、どうか気象海況に恵まれ、香川ノリらしい色艶優れた素晴らしい製品が大量に生産されるように切望してやみません。

最後に当研究会会員、ノリ関係の皆様のお一層のご指導ご協力をお願い申し上げます。

香川県無線漁業協同組合**代表理事会長 服部 郁弘**

新年明けましておめでとうございます。平成 18 年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、当組合の運営につきまして、多大なるご協力とご支援を賜りましたことを心から感謝申し上げます。本年も、漁業無線の維持発展のために、より一層の深いご理解とご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

さて、操業中の不慮の事故は後を絶たず、漁業者の皆さんにおかれましては気象海況の急激な変化により身の危険を感じられたことあろうかと存じます。漁船の衝突事故等は昨年においても多発しております。漁業者が自身の身を守るために救命胴衣を着用されるとともに、緊急時における最も確実な通信手段として、漁業無線を十分に活用されることを願う次第です。

また、(社)全国漁業無線協会では、水産庁からの委託を受け、平成 17 年度までの 3 カ年計画で「小型漁船救急支援システム開発事業」を実施しています。これは超短波漁業無線を積載している漁船の乗組員が海中に転落した際、携帯する小型発信器から自動的に救急信号と位置データを海岸局へ発信し、自船も自動的に停止するシステムであります。今年度までの実証試験で得られた課題等について改良後実用化を目指しており、完成後には普及に努めたいと考えております。

海上で操業する漁船と陸上との通信基盤としての漁業無線は、操業の安全と効率化による生産性の向上及び貴重な人命の確保という重要な役割を担っていると認識し、当組合としては本県の重要な基幹産業である漁船漁業の発展のため、今後とも地道な努力を続ける所存でございます。つきましては、組合員各位におかれましては、本年も格段のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

終わりに、組合員並びに系統関係者の皆様方のご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。

最後に、本年が良き年となるよう念願するとともに、会員並びに関係者の皆様方のご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

社団法人 香川県水産振興協会**会長 服部 郁弘**

新年明けましておめでとうございます。お健やかに初春をお迎えのことと存じますが、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。昨年中は、本協会の業務推進につきまして、会員を始め関係者皆様には格別のご支援、ご指導を賜り心より厚くお礼申し上げます。

さて、本県の漁業を取り巻く情勢は、就業者の減少や高齢化、漁獲量・魚価の低迷に加えて、上向き傾向といわれている景気動向もまだまだ先行きが不透明なため、漁家経営は非常に厳しい状況にあります。

平成 17 年度の本協会事業は、漁船漁業の資源生産向上対策として、大型種苗放流事業の実施並びに第 36 回放魚祭の開催、漁場環境保全対策としての海面・海浜清掃事業等への支援、操業安全対策として、救命胴衣の設置・着用推進等を積極的に推進してまいりました。しかし、昨年も本県海域において海難事故が頻発しており、とりわけ操業中の死亡事故が 4 件も発生したことは誠に遺憾であり、漁業操業の安全確保に大きな課題を残す結果となってしまいました。

また、昨年は、県魚ハマチ指定 10 周年を迎え、県並びに関係団体と連携し、県内外においてさまざまな記念事業に取り組みました。県内では 11 月に「県魚フェア」を開催し、香川県産の養殖ハマチを中心に、地魚、加工品等の県内水産物の消費拡大を促進するとともに、県下 5 地区の小学校において「水産教室」を開催し、学校給食への食材活用、地産地消の推進等にも努めました。また、京浜・京阪神地域においても、市場や量販店との水産物流通懇談会の開催や、量販店でのフェアを開催し、県内水産物の消費拡大を積極的に推進いたしました。

平成 18 年度も、引き続き本協会の中核的事业である放流事業を始め、海難予防を徹底するための操業安全対策事業、他各事業の一層の充実に努め、県内水産物の振興に寄与する所存ですので、倍旧のご協力、ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

最後に、平成 18 年が輝かしい年となりますよう祈願し、併せて会員並びに関係者皆様のご活躍とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 植村 正 治

全国の皆様、明けましておめでとうございます。
新年にあたり、全国の JF グループを代表しまして謹んでご挨拶申し上げます。

昨年は漁業界にとっては誠に厳しい年でした。燃油は異常な高騰をみせ、全国の漁業者は多大なコストアップにより、漁業経営は危機的な状況に追い込まれた上に、全国に大型クラゲが大量に来遊し、多大な漁具・漁獲物被害を受け、操業を早期に切り上げざるを得ない状況を招来しました。

これらに加え、永年にわたる資源の減少、魚価の低迷、大量に流入する輸入水産物の影響を受け、漁業経営は大変厳しい状況に置かれております。

昨年 12 月に香港で開催された WTO 閣僚会議では結論は先送りになったものの予断を許さない状況には変わりありません。

このような状況の中、昨年 11 月には「JF 全国漁協代表者集会」を開催し、これから 3 年間の JF グループの新運動方針を決定致しました。JF 合併の実現、高齢化対策、組合員の経営安定対策、販・購買事業の改革と JF の経営対策、等々解決しなければならない問題が多くあります。本年はこれらの実践を開始する年であります。前途は決して平坦ではありませんが、これまでも協同の力で困難な時代を乗り切ってきました。JF グループ一丸となって山積する課題を解決していかなければなりません。

わが国の景気は回復基調にあると言われておりますが、水産界ではまだ回復のきざしは見ておりません。しかし、この難局を乗り越えた先には、必ず明るさが見えると確信しております。

世界に誇るこのことのできるわが国の魚食文化を子々孫々に伝え、これを支える漁業・漁村の持続的発展の基盤を構築する新たなスタートの年になることを祈念し、あわせて皆様方のご活躍と航海の安全ならびにご健勝をお祈り致しまして、新年の挨拶といたします。



乾ノリ初入札!

平成 17 年度県内産養殖ノリ(乾海苔)の入札会が、12月9日(金)高松市瀬戸内町の本会共販所において、41 商社 80 名の参加を得て開催された。

初回の入札には、県下 11 漁協から出品があり、共販枚数 2,165 万枚、平均単価 10 円 96 銭で終了した。また、今期より導入された電子入札も順調にすすみ、成功裏に終了した。

なお、第 2 回共販は 12 月 25 日(日)に実施され、共販枚数 8,045 万枚、平均単価 10 円 03 銭で終了した。今後、県下全地区で本格生産に入るが、1 月をピークに 3 月末まで 9 回の入札会を予定している。

今漁期のノリの豊作を期待したい。



初入札の風景

主な行事予定(1/1~1/31)

- 1 月 4 日(水) 仕事始め
- 5 日(木) 新年初市祈願祭(中央卸売市場)
- 8 日(日) 第 3 回のり入札
- 18 日(水) 第 4 回のり入札
- 26 日(木) 第 5 回のり入札